

# 相国寺御用達

京菓菓

## 雲龍

雲龍は相国寺に保存されている狩野洞春の龍画に感銘を受け創作した、京菓匠・俵屋吉富の代表的な名菓です。雲龍の奥深い旨さの秘密、それは精選された材料と、一本一本心をこめて巻いていく手づくりの味にあります。心をこめた贈り物に幸福を呼ぶ雲龍をどうぞ……。

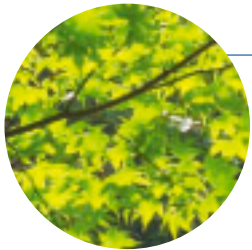


平成二十年夏号(第九十号)

# 圓明

大本山相国寺  
相国会本部





# 暑中お見舞い申し上げます

相国会総裁 有馬頼底  
 副総裁 江上泰山  
 会長 片岡匡三  
 本部長 佐分宗順  
 平成二十年盛夏

## 内局

管	宗	庶	教	財	法	教	財	承	承	鹿	慈
天閣美術館館長	務	務	務	務	務	務	務	天閣事務局局長	天閣参事	苑寺執事	照寺執事
有馬頼底	真如寺住職	玉龍院住職	豊光寺住職	林光院住職	大光明寺住職	普廣院副住職	長栄寺住職	大應寺住職	普廣院住職	長得院住職	是心寺副住職
	江上泰山	坂根孝慈	佐分宗順	澤宗泰	野謙堂	山雅晶	鈴木雲	久山弘祐	山木康稔	和方香州	平塚景明
	須賀玄集	小出量堂	賀出量堂	須賀玄集	賀出量堂	賀出量堂	賀出量堂	賀出量堂	賀出量堂	賀出量堂	賀出量堂

## 目次

表紙写真◎「相国寺航空写真」

カラーグラビア◎慈照寺東求堂 同仁齋書院飾り	2
◎拈華室老大師津送 <small>しんそう</small>	4
御挨拶	6
拈華室老大師追悼文「純禪の人」	11
「御遷化を悼んで」	13
「感謝」	15
清らかな心	22
タジキスタンとウズベキスタンの仏教遺跡	27
本山だより	43
教区だより	50
教化活動委員会活動報告	61
宝物拝見「無準師範墨蹟 應知客」	67
心のすがた	68

## 慈照寺 東求堂

# 同仁齋書院飾り

慈照寺（銀閣寺）では観音殿（銀閣）の全面的な修復工事が進められており、現在銀閣は足場で覆われ、一部観賞できなくなっている。

この期間を利用して、東求堂にある同仁齋に於いて、慈照寺に伝わる座敷道具を飾るための秘伝書「君台観左右帳記」を元に有馬頼底慈照寺住職が書院飾りを再現し、同仁齋が書齋として使用された往年の姿を味わっていた。こうと、特別拝観を行った。

『君台観左右帳記』慈照寺本

水滴 高麗青磁瓜形

硯屏 七官青磁 龍図 硯 星端溪 義政好  
知道作

文鎮 騎牛石

印箱 唐物籠

古銅花瓶 香盆

違棚 ちがいたな

浄瓶 じんびん 天平瓶子  
盆

食籠 じきろう 唐物青貝大食籠

建蓋銀天目茶碗  
青貝天目台





鉢  
誂奉読 江上宗務総長



# 拈華室老大師津送

しん  
そう



在りし日の拈華室老大師



大練忌 山門諷經(法堂)



納骨

## 御挨拶



宗務総長 江上泰山

相国寺派寺院御住職並びに寺庭婦人各位、そして相国会の会員の皆様ご機嫌如何お過しでしょうか。特に各寺院におかれてはお盆を前にしてその準備などにお忙しいこととお察し申し上げます。お身体充分にご留意下さい。

さて、三月八日に開かれまして定期宗会のご推薦により、三たび宗務総長の重席を汚すことに成りました。

平成十四年五月一日より二期六年間に亘り、大過なく任務を遂行出来ましたが、管長猥下並びに一山諸老宿、一派各位のご法愛とご指導ご鞭撻の賜物であり、分けても内局各部長と各部長、女性職員の皆さんに支えて頂きましたことに対し深甚なる感謝の意を表しますと共に、五月一日よりは別掲の通り新内局を発足致しました。

引続き越格なる諸大徳各位のお引廻しにより任期を全とう出来ますよう、新内局員共々よろしくお願い申し上げます。

本山及び本派にとりましては布教伝導は最も大切な眼目であり、特に坐禅の指導を中心とした禅会や法話の会が各所で行われております。その指導者として管長猥下と共に熱心にご指導に当っておられた相国寺派専門道場の師家田中芳州老師が、昨年暮より体調を崩され入院をくり返され静養に専念されておられましたが、薬石効なく、去る五月八日五十九歳を一期としてご遷化されました。

詳しくは関係者の追悼文にゆずりますが、田中芳州老師は本派唯一の専門道場の師家として幾多の修行僧を指導され、複数の嗣法の弟子をも育てられました。去る三月の宗会では次期管長候補者として視察開堂式を平成二十二年四月に挙行して頂きたいとの要請を致し、心よく受諾をして頂きましたのに、まさかこんなに早く遷化されるとは誰も思いもしなかったことで、その一報が僧堂から入った時、居合せた誰しもが「エー」といって絶句したことであります。

老師はこれからの相国寺が進むべき道について独自の考え方を持っておられ、吾々としても将来大いに期待を致しておりましただけに余りにも早いご遷化に対し、惜しみても尚余り有るものがあります。一派挙げて衷心より哀悼の意を表します。

今年の円明誌正月号でもご紹介しましたが、昨年は相国寺の開基である足利三代將軍義満公六百年遠忌を記念して「京の五山禅の文化展」が、東京国立博物館に

引続き九州大宰府の九州国立博物館で今年一月一日より二ヶ月に亘って開催され十七万人余りの観覧者で連日賑いを見せました。期間中大光明寺の佐々木承玄禅士と二人で坐禅の指導を行い、連日沢山の参加者に感銘を与えましたが、これで終ってしまったのは余りにもつたいないと二人で話し合ったことでした。

管長猥下におかれましては、まさに東奔西走、席の温まる暇もない程の忙しさではありますが、本山諸行事にご出頭頂いて宗派をご総覧頂いておりますこと誠に法幸至極であります。

ご存知の通り平成十五年秋より全国各教区の末寺を一ヶ寺ずつ訪問し、檀信徒の皆さんに親しくお会い頂き法話をお願い致しております「ご親教」は本年で六年目を迎え、今年は九月二十八日より第四教区若狭地区の高浜町西部へお邪魔致しますのでよろしくお願い致します。

今秋十月十五日よりは京都市とフランスのパリ市とが友情盟約締結五十周年記念として『相国寺・金閣・銀閣名宝展』がパリ市の最も華やかな中心街であるシャンゼリゼ大通りに面した市立ブチパレ美術館で十二月十四日まで開催されます。

オープニングには、相国寺から管長猥下始め、宗務総長、金・銀閣執事長等関係者と京都市関係者が出席して盛大に行われますが、期間中には坐禅の指導や、茶道・華道・香道の家元関係者によるデモンストレーションが行われ、日仏の文化交流と両市の友情の絆を尚一層の発展と、「相国寺の名を世界に知らしめる飛躍の年」になる事を期待致しております。

## 豊かなる念おもいに通う母の笑み

言葉なくして見守られつつ

(照井親資)

この短歌は毎日新聞の入選作ですが、選者の故窪田空穂先生の評が、またすばらしいのです。

『豊かなる念おもい』は、宗教に生きる人の心境であり、理想としている境地であると思われます。

先年、長野県の中学三年生が京都・奈良に修学旅行に出かけ、その反省会で生徒達は、古都での「ほとけとの出あい」を次のように話していたと新聞に出ていました。

「ほとけさまの目が怖くなって目をそらしたら、こっちを向けといわれた。」

「ほとけさまは、悲しそうで、目に涙をためていた。」

「私は、心の旅をしたような気がする。仏像がほとけでなく、拝む心の中に、ほとけがいらっしやる。」

などと、大人には、かえって分らないほとけとの出会いを、中学生達は胸中に感じていたのです。

ほとけさまと同じように、亡き人達が見つめていてくれるのです。見つ

められているという事実は自分には分りません。しかし見つめられ、見守られていると想像するだけでも胸が明るく暖かくなります。

見つめられ、見守られているなら、亡き人に何かをご覧に入れたい、そして喜んでいただきたいという願いになります。それが供養です。中でも心の成長を見ていただくのが、最高のお供えでありましょう。

お盆を迎えて少しく余談になりました。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

合掌

## 追記

去る六月三日第四教区福井県大飯郡高浜町の南陽寺住職桂寛洲師が遷化されました。師は永らく教職にあつて幾多の教え子に人間教育を軸に、学校教育に携り、併せて家庭教育の大切さを説き、広く社会のため、大いなる貢献をされました。一方宗門にあつては、第四教区の宗務を司どり、教区内寺院の維持発展並に宗会議員として、又宗会議長として本派発展のため数多くの功績を残されました。議員退任後はなお派内の長老として意を宗門にそそがれ、一派、教区共に期待するところ多大でありましたのに、遽然として化を遷され、耐へ難き哀惜の念を禁じえません。謹んで哀悼の意を表します。

## 拈華室老大師追悼

去る五月八日、五十九歳の若さで忽然と化を遷された拈華室老大師。一派の元老を失ったその衝撃は計り知れません。今般哀惜深く未だ悲しみ尽きぬ中、在りし日の老大師を偲んで三名の方に追悼文を依頼しました。

## 純禪の人

養源院住職 平塚景堂

拈華室老大師（以下老師と略称）とわたしとは、立場上ほとんど私的交流もなく、したがって老師が僧堂師家に就任される以前のことは正確にはなにも存じあげていない。わたしとは年齢が同じであることと、前僧堂師家止々庵・梶谷宗忍老師とともに参禅したという薄い因縁があるにすぎない。他派から転派して山内塔頭の住職になってから相国僧堂に通参し始めたわたしと、すでに相国僧堂の雲水であった老師とは最初から接点が多かったわけである。

ただ、老師がなにかの都合で僧堂を出られて、やり残した室内（禅問答）を通参に切り替えられたとき、わたしと同じ立場に一時的になったので、喚鐘場で毎日お見かけすることになったのである。国泰寺派管長猥下や常照皇寺・鳳棲軒老師、光雲寺・傳法庵老

師とも当時の懐かしい通参仲間であった。

それで、たった一度だけ自坊に老師を薬石点心(夕食)にお招きしたことがあった。僧堂師家就任間もない頃で、わたしもその時の会話はほとんど忘れてしまったが、ハッキリと耳に残っている老師の言葉は「臨濟禪は見性大悟あるのみです」と言い切られたことであつた。老境の止々庵老師から表立って「見性大悟」などというナマな言葉は一切聞いていなかったわたしとしては新鮮な驚きであり、また若き僧堂師家の気概としては大いに頼もしい限りだと思つた。そのほかに、ご自身の修行の過程で薰陶を受けられた長岡禪塾の森本省念老師を大変尊敬されているようにお見受けした。

見性大悟とは何かということとはしばらく置くとして、わが国の臨濟禪が中国唐代の祖師禪の本流を標榜する以上、僧堂師家が修行僧の見性大悟を第一とするのは当たり前以上に当たり前である。問題は、現代の僧堂がほとんど資格取得のための教育機関だということである。にもかかわらず老師が「見性大悟」を力説されたのは、一年だろうが十年だろうが、僧堂修行に計り知れない純度を厳しく求めた結果だろうと推察申しあげた。

臨濟禪の場合、見性大悟が大前提ではあるけれど、さらに重要な課題は悟りつばなしではなく悟後の境涯をじっくりと時間をかけて実生活上で練ることがある。いわゆる「仏向上」の消息である。このことは公案体系として「法身」「機関」「言詮」「難透」「向上」として仮に位置づけられており、十牛図などを参考にされると分かりやすいと思う。つまり「仏向上」とはじっくり歳月をかけて練られた一種の老境をいうのであつて、たとえ四十歳代で「仏向上」の公案を済ませても、老いぼれて水っ洩たらす任運の境涯が

真に手に入るのは七十、八十歳までの長寿を待たねばならないのである。

このたびの老師のあまりに早いご遷化を無念至極に思うのは、まさにこの一事に尽きる。禅僧として天才的な資質を持った純禅の人であるからこそ、その老境の味わいはまた格別であつたのではないかと、ひとり空想し痛恨するのである。相国僧堂の法系は厳しい見性禅はもとより、同時にまた長寿の法系でもあつた。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 御遷化を悼んで

竹林寺住職 牛江宗道

拈華室老師は、今から二十二年前の昭和六十一年四月二十二日に、相国僧堂に入門されました。奇しくも私も、同年の四月十五日、同僧堂に入門しています。老師は、そのとき三十六才、私は二十九才でありました。

老師は、相国僧堂に来る前に、南禅僧堂に入門されて、厳しい修行を積まれたので、そのときすでに、修行がかなり進んでおられました。また、私にとつては、長岡禪塾の先輩でもあられました。老師からは、数多くの叱咤激励を頂きました。

入門してすぐのことでした。

「達たつつさん(私の僧堂における呼び名)も、見性するために僧堂に来ているんだろう。」という厳しいお言葉を掛けて頂いていたことを、私の古い日記帳から発見しました。見性とは、文字通りには、自性を見ることです。それは、悟りを開くこと、仏に成ることでありませぬ。僧堂に修行に来る目的は、仏になることが第一であらねばなりません。こ



の出発点が、はっきりしていなかったり、弱いと、芳しい修行の成果は得られません。私は、修行の出発点に於て、老大師から、修行の一番大切な所を教えて頂いていたことに、今改めて気づく次第です。老大師は、平成七年に、止々庵老大師御遷化のあとをうけて、相国僧堂の御師家さんになられました。大接心の提唱のとき、高座からよく見性を修行の第一目的とするようにと修行僧に向って語りかけておられたお姿が偲ばれます。また、平成九年に、止々庵老大師の著書『禅林類聚著語』が完成したとき、老大師は、あとがきを書かれておられます。その中に、

「願以此功德 普及於一切 我等與衆生 皆共成佛道」

という普回向の一文を、老大師は書き込まれています。

「心血を注いで書き完成させられた止々庵老大師のこの著作の功德が、宇宙の万物に影響を及ぼし、我々人間と生きとし生けるものすべてが、共に仏と成らんことを願います」という意味になろうかと思えます。

老大師も、僧堂の修行僧はもとより、東京維摩会や島根県の高校生の坐禅指導に、心血を注いでおられました。老大師は、仏国土の建設をひたすら願っておられたと、私は思います。しかし、夢半ばにして、病に倒れました。

私は、老大師のこの思いを強く受け止めて、仏国土の建設を目ざして、仏道修行に精進する所存であります。

平成二十年六月四日記す

## 感謝

相国会长 相国寺僧堂(大通院)総代 片岡 匡三

大燈国師

偈

億劫相別而須臾不離

億劫相別ルレドモ須臾モ離レズ

盡日相对而刹那不对

盡日相对スレドモ刹那モ对セズ

一山の檀信徒を代表して、心から哀悼の意を表します。

静かに、安らかにお眠りください。遂に「億劫相別」れてしまいました。残念ですが厳粛な事実です。日が経つにつれ、寂寥の思いが深まります。温かい慈しみの心で常に接してくださいました。深いご芳情と、篤いご指導を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

四月十三日(日)

約束の午前九時、僧堂の門に副司さんが立っておられて、「今日は相見できません。」と云われた。何か良くないことが起ったのかと思いつながら帰宅しました。午前十時過ぎ、「体調不良にもかかわらず、居士の指導をなさっておられる最中に、意識を失われ、(それはすぐに快復されたようですが)、直ちに京大病院に入院された。」と後ほど連

絡がありました。

輸血、点滴等の治療で、一時、快復されたようです。その後、二度ほどお見舞に伺いましたが、確かにお痩せになっておられました。いつもの優しいご表情で、はつきりとしたおことばで、お話し下さいました。私は「頑張つて、うんと食べてくださいね。」と体力をつけることを強調してかえりました。

四月十八日(金)

「担当医 渡部 淳先生が病状についての説明をするというので、立ち会ってほしい。」との連絡があり、病院に駆けつけました。相国会会長、僧堂の総代という私の紹介があり、老師と二人、一時間半ほど説明を受けました。

「PSAの数値が異常に高い。潰瘍の増加が著しい。

両肺に水が溜り、腹水も溜っている。腹膜、胸膜に沿って癌が転移している。

以上の所見から、いつ何があってもおかしくない状態である。」

以上が渡部医師の説明の概要です。

老師は「わかりました。」とおっしゃり「一切の救急治療はお断りします。ただし、もし痛みが激しいときは、その対応だけはお願います。」とおっしゃって、一週間の入院継続をお決めになりました。人間としての尊敬を大切になさるお氣持がうかがえませんでした。

病室に戻られ、ベッドに正座され、静かにおっしゃいました。「私は絶対に最後まで諦めません。必ず復帰します。心のままに自由に生きます。百歳までもね。」と、いつもの穏やかな眼差しと静かな口調で、きっぱりとおっしゃいました。

現代医学の厳粛な診断をお受けになった直後のおことばは、生死を超越して「心のままに自由に生きるのだ。」という禅の真髄を示されたおことばとして驚嘆し、強く感銘をうけ、深く敬服した次第です。必ず復帰して、雲水の指導に当たるといふ強烈な使命感と決意のほどがうかがえました。

その後、約一ヶ月、入退院を繰り返しながら、實に立派に老師としての重責をはたされました。肺に水が溜まっているので横になると苦しいから、「これが楽なんだよ。」とベッドの上で坐禅を組み、夜も坐睡されるとか。しかし、何回もお見舞に上がつても、あの端正なお姿と、柔和なお顔で、淡々とした口調でお話くださることに変わりはありませんでした。痛みやお苦しみが随分おありだったろうに、ついで、お見せにならなかった。

「老師、奇跡が起っていますね。」と私が云うと笑顔で何度もうなづいておられました。「無心に自由に生きていこう。今、この一瞬、一瞬を精一杯に生きていこう。」とする崇高な老師のお姿を拝して、深い感動をおぼえました。悲壮感など微塵もなく、むしろ安らかなものを感じて退室しました。

五月三日(日)

老師は退院後、ふだん通り雲水の指導に当たり、この日午後再入院を予定しておられました。午前十時、島根県の江の川高校の宅野幸徳校長が駆けるようにやってきました。老師は、平成十五年六月から十九年六月まで五年間、一泊二日の全校坐禅会を催して下さり、坐禅指導と法話をして下さっていました。その法話「五年分」を一冊に纏め、五月二日刷りあがったのを、大急ぎ持参したのでした。宅野校長の真面目な努力を高く評価し、前途有望な教師として激励し、「素直な心を中心に据えて、平常心で生きよ。」と諭されました。

私は縁あって島根県江津市にある江の川高校の教育担当理事をしていました。校長を中心として、一丸となつて立派な教育を実践していました。しかし、今一つ、凜とした厳しさに欠けるものがあるので、或る時、芳州老師のお教えを仰いだのです。

「行つて、坐禅をしよう。」と間髪を入れず、おっしゃって下さり、かくして、全校坐禅会が開催されることになったのです。

平成十五年六月第一回目は、体育館で全校生徒、教職員が坐禅をし、法話をおききました。

法話は「平常心是道」。「真心」をつくして、その時、その場で一生懸命がんばって、自らに恥じることなく堂々と生きよ。」と諭されました。二日目、学校を去る時、クラブ活動中の野球部に「甲子園で会おう。」と老師が熱く呼びかけたのです。この一言で彼らは燃えたのです。旬日をまたず島根県代表として甲子園に出場。ベスト四まで

勝ち進みました。

全く、誰もが、予想もしていなかったことです。準決勝で惜敗したけれども全員得るものは大きかったとおもいます。「常に平常心で臨むこと。」「とことんあきらめないこと。」等々。

しかも、この炎天下、老師は甲子園に三度も応援にかけつけて下さいました。今、思うと、癌と闘いながら、たいへんなお体なのに、そのようなことを少しも感じさせなかったばかりか率先して我々を引っ張って下さったあの力、熱意を思う時、どう御礼を申し上げてよいやら。

改めて、感謝の念でいっぱいです。その後、平成十九年六月まで計、五年間にわたつて坐禅のご指導をいただきました。老師の外弟子は既に江の川高校だけで一千名は越えました。彼らは卒業後も、社会で、お教えを大切にし、真面目に生きています。ご多忙ななかをわざわざ時間を割き、遠路おいでいただき、ご指導いただいたこと、ご慈悲の心に改めて深く感謝いたします。

五月二十三日(金)

老師がご逝去されて二週間ほどがたちました。私は、僧堂の隠寮で、老師のお写真とご遺骨の前に坐っていました。父の命日に雲水さんお二人にお参りいただいたことを報告し、ひんやりとした空気のなかで、しばし黙想していました。その時、老師の魂は全く自由に天空を駆け巡っておられたに違いありません。それが「般若心経」を

誦じ終えて、ふと顔を上げた時、確かにそこに、かすかに微笑をたたえた老師がおられるのです。

正に、魂魄相和して、いつもの端正で品格のある老師がそこにおられました。死して自由に蘇ったのです。今や、自由に生きる世界におられるのだなあと感得しました。私は悲しみというよりも何とも云えない安らいだ和やかな気持ちになりました。

おもえば、五月八日ご逝去された午後二時二十三分、私は市外にいて、最後のお別れはできませんでした。三時半過ぎ到着しました。老師は、静寂な中でおやすみになっておられました。精一杯生ききって、精一杯死にきった実に安らかなお顔でした。

老師の掌は、まだ温かく、そっと置いた私の手に老師のぬくもりが柔らかく伝わってきて、しみじみ心が癒される思いがしました。

丁度あの時のように安らいだ、優しい満たされた心で隠寮を後にしました。

最後に、老師は、闘病生活の中で、二木徹先生と吉江孝美先生には心から感謝しておられました。秋田から遠路再三にわたり施療においでくださり、ツボを押されて、「随分と楽になったよ。」と繰り返しおっしゃっていました。楽になった嬉しそうな老師のお顔が浮んできます。吉江先生には灸療法で楽にしていたのは勿論ですが、それ以上に昼夜を問わず、ひたすらに看護して下さったことに、「有難いことです。」と常に口にして、

感謝しておられました。「我儘ばかり言ってるのです。」老師はやさしく包んで許してくださる吉江先生に深く深く感謝しておられました。

私も、数多くのご恩に報いるべく、老師のお心から須臾も離れることなく、充実した「今」を精一杯生きる覚悟でおります。

誠に、有難うございました。

合掌

平成二十年度 在錫者名簿(雨安居)

愛知(妙)	福昌寺徒	羽澄一乘	京都(南)	光雲寺徒	中川秀峰
京都(南)	龍興院徒	一常哲堂	栃木(建)	願成寺徒	長尾徳宏
京都(相)	豊光寺徒	佐分承文	兵庫(庫妙)	靈雲寺徒	林明慶
鹿児島(相)	良福寺徒	近藤永進	香川(東)	正楽寺徒	上杉正航
福岡(東)	莊嚴寺徒	山崎承宗	京都(相)	光源院徒	荒木文元
北海道(相)	明覚寺徒	山崎浩宣			

# 清らかな心

演劇塾 長田学舎 粟津もと

今から十年余り前——京都の地下鉄、東西が開通（一九九七年）する二、三年前のことです。

当時、滋賀県の浜大津と京都の三条京阪駅の間は、京阪電鉄の路面電車が走っていました。沿線に住む私は、随分お世話になった電車です。

それは四月の第三金曜日の夜の事でした。いつもは午後十時すぎの電車に乗るのですが、その日は三十分早い九時四十分すぎの電車に乗ったのです。

いつものように一番前の入口から乗った瞬間「込んでるなあ」と思いました。三十分早いと、こんなにも込むのかと一寸驚きました。そういえば金曜日は「花の金曜日」といわれて、サラリーマンは週末の開放感に浸り、気分ほぐしのひと時をもった後、家路につく時間帯であったのかも知れません。

発車まで、後から乗って来る人もあるので、私は釣り革を持って背合わせに立っている人の間をすり抜けて、入り口の反対側の、丁度空いていた釣り革を持ちました。前から四つ目くらいの釣り革でした。やがて発車のベルが鳴り、電車は重い鈍い音を響かせ乍ら、車体を軋ませて動き出しました。

次の停留所「東山三条」を発車して間もなくでした。突然、背後の空気がさっと左右に分かれたように大きく動いたのです。「何だろう」と思っただけでふり返ると、入り口が一番近い座席に坐っていた若者が、苦しそうに上半身をふるわせて激しく嘔吐しているのです。口から顎にかけて、背広の胸から膝に置いた鞆まで、胃から突き上って来た食べ物がべつとりとかかっているのです。真新しい背広と鞆から見ても、明らかに高校を出て、四

月から入社した新入社員であることがわかりました。きっと歓迎会で先輩にすすめられて、ことわり切れずに飲んだ事のないお酒を飲んだのでしょう。電車に乗る前から気分が悪くなって、胸がムカムカしていたのにちがいません。電車が動き出して体が揺れるとますます胸は苦しくなって必死で我慢していたのが押え切れず、一気に口から飛び出したのでしょうか。

その時でした。若者の斜め前に立ってられた五十才前後の男性が、右肩にかけた手下げ鞆の中へ左手を入れて、懸命に何かを引っ張り出そうとしてられるのです。鞆の口から出ているのを見ると、ビニール袋でした。ビニール袋には何かが入っているのでしょうか。それを鞆の中で出そうと、ビニール袋をふったり、指を入れたりして、やっと引っ張り出されました。そして嘔吐を続けている若者に素早く渡されたのです。と、それに合わせるように、ティッシュペーパーが差し出されたのです。それはビニール袋を渡された男性の左隣で釣り革を持ってられた、いかにもキヤリアウーマンと見受けられる、センスのいい服装の中年女性でした。釣り革を持つ手にポケットティッシュのケースを合せ持つて、ケースの中から一枚、又一枚と取り出して、次々と渡されるのです。若者はそのティッシュペーパーで口や顎を拭い取り乍ら、猶もお腹の中から激しく突き上って来るのをビニール袋で受けていましたが、もう黄色い胃液のような水だけが上って来ていました。ほんとうに苦しかっただろうと思います。

その時気がついたのですが、私の隣で釣り革を持っていた若い女性が、先にティッシュペーパーを渡されている女性と同じように、釣り革を持つ手にポケットティッシュのケースを持って、ペーパーを取り出しているのです。先の女性のペーパーがなくなれば、次に差し出そうと準備をして持っているのです。と、その時でした。

「すみませんでした。申しわけありませんでした」――

それは血を吐くような絶叫でした。若者が車内全体に聞こえるような響きわたる大声で叫んだのです。若者はその言葉を二回くり返しました。車内は水を打ったようにシーンとしていました。レールを走る電車の音だけが響いていました。

若者は頭を垂れて動きませんでした。その姿はまるで土下座をして土に額をすりつけているようでした。その若者の真ん前に一人の青年が釣り革を持って立っていました。その青年も亦大学を出たばかりの新入社員のようでした。新しい背広を着て、新しい靴を履いていました。そのズボンの膝位から靴の甲にかけて、若者が嘔吐した物がかかっているのです。併し、青年は表情一つくずさず、静かな眼差しで窓の外を流れる夜景を眺めていたのです。

やがて電車は次の停留所「蹴上」に着きました。ドアが開いて乗客が降りようとした時です。運転士さんが「大へん御迷惑をおかけしました。申しわけありませんでした」――そういつて深々と頭を下げられたのです。それは静かな口調で、心に染み透るような言葉でした。運転士さんは次々と降りる乗客の一人一人に誠心誠意をもって、丁寧に謝られたのです。その心と態度は、次の「九条山」でも「日ノ岡」でも同じでした。

電車を降りた私の心は、清々しい思いで、幸せに満ちあふれていました。涙が出るほ



向陽寺住職  
鈴木元拙

## タジキスタンとウズベキスタンの仏教遺跡

G.Suzuki '07/07/10-18

ど嬉しくて、胸が熱くなっていました。私は何一つ出来ませんでした。次々と積極的に行動されている人たちの様子を只見ているだけだったのです。こうして書いてみると、長い時間のようですが、わずか四、五分の間に起った出来事だったのです。こんな素晴らしいドラマに出会えた事に感謝をしています。十年以上も前の出来事ですのに昨日の事のようにしっかりと覚えていきます。その時も今も、若者が嘔吐した物や臭いは全く残っていません。すっかり消えてしまっているのです。鮮明に残っているのは、人々の若者に注がれた清らかな真心でした。

新入社員が生まれる四月になると、必ずといつていい程、私はこの出来事を思い出すのです。そしてあの清らかな心を持ち合った人々に掌を合すのです。素晴らしい心をお願いしたいと深く感謝しています。

最近社会でいろんな事が起っています。心が凍りつくような悲しい恐ろしい事が毎日のように起っています。それ故に敢えてこの一文を書かせていただきました。

合掌

桂道料理  
う え こ  
う ち

〒604-8356  
京都市中京区大宮通錦上ル  
電話〇七五―八二―三八七二

### その一

平成十九年七月十日〜十三日

この旅のキーワードは「仏像のルーツ」「玄奘の道」「シルクロード」「ソグド人」であった。訪れた国は、タジキスタンとウズベキスタンの一部である。位置的には中央アジアに属している。歴史的には、両国とも古い国ではあるが、政情的には、タジキスタンは一九九一年九月、ウズベキスタンは同年八月に旧ソビエト連邦から独立した新生民族国家である。

出発前に外務省の「海外渡航危険情報」を見ると、「渡航の延期をお勧めします。」とか穏やかでない内容で色んな注意を促している。確かに行ってみると、日本ではあり得ないようなことを色々経験した。でもこのようなことは新しい国家では当たり前のことなのだ。

両国とも古代から、大いなる魅力と好奇心を掻き立てる国々である。そして行ってみて暖かい人間味豊かな人達にいっぱいめぐり合うこともできたの

だった。また、大乘仏教が北部へ広まり、各地に根付いて徐々に中国、日本へと伝わって行ったその中間に位置する地域でもある。玄奘が唐から天竺へ求法の旅をする途中に立ち寄った遺跡も随所にある。「大唐西域記」にその様子が、今行ってきた如くに生き生きと記されている。

仏像が初めて登場したのはこのあたりだ。その姿を見ると、明らかにギリシヤなど西からの文明の影響を受けた姿、形である。古代シルクロードの経路を通じて西方のイメージで仏像を形作ったことがうなずける。

タジキスタンやウズベキスタンはシルクロードの行程においても丁度中間に位置している。この地域は、東西文化交流に大いに関わり、今なおナゾの多いソグド人のことをはじめ、ペルシヤ帝国の支配、アレキサンドロス大王の遠征と同時にギリシヤ(ヘレニズム)文化の影響など、様々な民族興亡の地、文明交差の地であった。また、北インドのクシヤン王朝の仏教文化が花開いた地域でもあった。

これらのことに興味を抱いて、関空からソウル経由、黄土高原、タクラマカン砂漠、天山山脈などを越えて、先ずウズベキスタンの首都タシケントに着いた。

### ●タシケントからホジャントへ

玄奘の「大唐西域記」ではタシケント(石国)の様子を「周圍千余里で、西はシルダリア川(葉河)に望む。東西は狭く、南北は長い。城や邑は数十あるが、夫々主君をいただいている。全体の君主はなく、突厥トウキョクに隸属している。」と記している。

今は、人口二百十五万、緑の樹々が多いゆったりとした雰囲気の大都市だ。路面電車、バス、そして中央アジアではここだけという地下鉄が行き交っている。

モンゴル軍による破壊からティムール帝国による復興、ソ連からの独立、それに一九六六年に襲った地震と、まちの歴史は波乱に満ちていた。宗教はイスラム二大宗派の一つであるスンニ派とロシア正教が主であるという。

仏教に関わることや、シルクロード上重要な位置

にあったことの面影は、もう博物館や美術館の展示物以外には、街中どこにも見当たらなかった。

タシケントから国境を越えたタジキスタンの地方大都市であるホジャントへ。そしてソグドゆかりの要塞であったティムールマリク城塞跡へ四駆車で移動。

この城塞は古代ホジャント市の外壁だった。紀元前三世紀、アレキサンドロス大王によつて築城された。その後八世紀にアラブの侵入に遭つたり、十三世



タ方のシルダリア河



ティムールマリク要塞

紀にはシルダリア川向こうの山からチンギスハーンにも攻められたりして、その度にソグド人は迫害を繰り返し受けた。それらを物語る彼らの使った生活必需品の出土品が、隣接する博物館に展示されていた。壁の向こう隣が、今も軍事基地であり、城壁に登ると、内側に兵士の姿が見受けられ、写真はご法度だった。

### ●ホジャントからペンジケントへ

ホジャントからタジキスタン最西のペンジケントへの道程は遠く険しい。道中にムグ・テバがある。八世紀までソグド人が住んでいたがイスラムからの侵攻に遭い今は遺跡となっている。

ここから見下ろすイスタラフジャンの街の名は、



ムグ・テバ





ペンジケント遺跡(ザラフシャン河を望む)



ペンジケント寺院跡



シャフリスタン峠(3,378m)



イスタラフシャンの町



ザラフシャン河畔のひまわり

アレキサンダーの妃となつたソグド人妃に因んでいる。二〇〇二年にはまちの二五〇〇年祭を祝つたという歴史の古いまちである。まちを出て山道にさしかかると道がなくなっている。道なき道を峠に向けひた走り。シャフリスタ

ン峠(三三七八m)の向こう側は工事中で、正午を過ぎると通行止めと聞き、ペンジケントへと急いだ。当時、ソグド人の住むペンジケントの様子は玄奘の「大唐西域記」の中で、「周囲が四・五百里あり、川の流域に拠っている。物産、風俗はサマルカンドと同じである。」また「うそ偽りが多く、父子共に蓄財に励んでいる。」と、東西交易の主役であったソグド人の人間模様の一端にも触れている。

ソグド人の古代都市国家、ペンジケント(ビンジュカート)遺跡に立った。向こうに現在のペンジケントの町、その向こうにザラフシャン河、そして岩肌むき出しのザラフシャン山脈が見える。

ここに来るためには、陸路タジキスタンの首都ドウシャンベからか、六十kmの至近距離にあるウズベキスタンの首都サマルカンドからしか入れない。ここでは警察署長をしていたという大家族のお家に泊めていただいた。自分たちの居間、応接間、それに寝室までも宿泊のために提供してくれたのだ。一体家族の人達はどこで寝たのであろうか。

ペンジケント遺跡の小高い方角にはゾロアスター教の遺構が残っている。火を神聖と崇め、死後穢れた肉体は荼毘にふすことを許さなかった。死体は鳥類に仕上げさせて骨だけになったところで大きな骨壺に収められた。

玄奘の「大唐西域記」には、この地方ソグディアナのことを次のように記している。「土地は肥沃、農業が盛んで木立はこんもりと茂り、花・果物はよく茂っている。土地は水豊かに、林の樹木は枝を茂らし、春の終わりの月には咲く花が入り混じり、まるであや（綺）のようである。」と・・・

確かにこの時期に訪れてみると、一帯は油用のひまわりが咲き誇り、畑や野菜畑があり、そして杏の果樹園と思われるような樹木があった。岩肌むき出しの山々を背景に緑鮮やかなコントラストを感じた。

玄奘が訪れた六世紀には、まだ絢爛なソグド国家が安泰だったのであろう。八世紀の初め、アラブ人の侵略に遭い、それに対抗すべき住民が一斉蜂起した。七二一年、ムグ山のアブカル要塞に立てこもって最後

まで抵抗したが及ばず結果鎮圧され、まちは破壊され、多くの住民は殺されたという。

ソグド人の古代都市のナゾ解きのために一九四六年から未だに発掘調査が続けられている。



ペンジケント住居跡の発掘



ペンジケントへの道にて

「ソグドのポンペイ」と言われるほど、往時の住居の間取り、街づくりの様子、そして壁画などを通じての生活文化の様がうかがわれる遺跡だ。この日も、ロシアの考古学者「教授チーム」が発掘調査を行っており、しばらく話を交わすことが出来た。

最近になって解ったことであるが、法隆寺、聖徳太子の時代から伝わっている白檀ビキタンと梅檀センタンの香木にソグド文字が刻まれているという。（東京国立博物館蔵）又、藤原道長の日誌にミール「蜜」というソグド語で日曜を表す文字が使われていたと聞く。遥かこの地から既に日本とつながっていたのだ。

## その二

平成十九年七月十三日～十八日

### ペンジケントからドウシヤンベへ

ここからタジキスタンの首都ドウシヤンベに行くには、昨日の道を引き返し、途中で南下してアンゾーブ峠を越えなければならぬ。行程一五〇kmと聞く。あいにく土砂崩れに遭ってしまった。すれ違いも



土砂崩れで立ち往生



夕方のアンゾーブ峠(3,372m)

出来ない。右は断崖左は濁流、迂回道路もない。全くお手上げだった。ドウシヤンベまでの道程は遠く険しいのに：

およそ三時間後にぼちぼち動き出した。見ると現場は土石流で何台かの車が巻き込まれていた。

アンゾーブ峠の麓、海拔二、二〇〇mにある戸数十軒ぐらいの村に着いたのは、とき既に午後六時過ぎで、あたりはもう薄暗い。しかしここで夜を明かすことはできない。午後七時過ぎにようやく三、三七二mのアンゾーブ峠までたどり着いた。

ヒサール山脈の峰々は、まだ明るいが見下ろす谷間はもう暗かった。峠には残雪があり、強風は肌を刺す。傾斜面には可憐な高山の花が一面咲いていた。下り坂は暗闇、この車のヘッドライトだけを頼りにタジキスタンの首都ドウシヤンベに辿り着いた。

タジキスタンの代表的な作物は綿花だ。栽培はシルダリア川とアマダリア川からの灌漑用水で行わ

れ、国の経済を支えている。

そんな綿花畑の中にアジナ・テバがある。このテバは仏教遺跡としては最も西に位置している。全体の地形は方形であった。ここで涅槃像が見つかった。

涅槃像は十三mあり、中欧アジア最大のもの。仏教がこの地域に根付き信仰されていた証である。因みにテバで発見された時は、顔は北向き、頭は東向きだったとのこと。古代民族博物館に保管されており、

その寝姿は素朴でありながら、往時の信仰の



アジナ・テバ



発掘された涅槃像(13m)



カフィル・テバ

大きさを推し測っているかのようだった。

テバは、六〜七世紀の僧院の遺構を有し、中心の小高い所にストゥーパ跡、その周りには僧侶の居所跡などがあった。このテバからは他に仏像が多く出土した。

近くにはカフィル・カラ(テバ)がある。「お墓のない城」という意味だそうだ。地形は小じんまりと正方形であった。もはや想像だけではうかがい知れない遺構だった。

### ●ドウシヤンベからテルメズへ

タジキスタンの首都ドウシヤンベから西へ二十五kmにヒサール城塞跡がある。かつてはこの城塞の中には、住居、庭園、市場、シルクロードのキャラバンサライ(宿場)などがあった。しかしソ連統治の時代、民



ヒサール城塞跡



キャラバンサライ跡

族意識による抵抗運動の根拠地となったため、ロシア赤軍によって破壊されてしまった。城門だけが修復された。手前に横切る道路は、タジキスタンからウズベキスタンへ入る幹線の一つだが、かつてのシルクロードでもあった。

右側には歴史を偲ばせる樹齢五百年のプラタナスの森がある。今日は良い日なのであるうか、白い塔の前では、何組かの屋外結婚式も執り行われていた。

再びウズベキスタンへ入る。タジキスタンからウズベキスタンへの国境付近の撮影は緩衝地帯まで。出

国にうんざりするぐらい手間取った。暑さの中、緩衝地帯での荷物を転がしながらの移動はきつかった。それに入国手続きには結構手間取った。審査官は、どうやらウズベキスタンへの持ち出し通貨の額が、手持の通貨と申請書類の額とが正確に合っていないと言っているらしい。でも何か別目的でもありそうな感じだった。ガイドは別室に連れて行かれ、しばらくもどつてこない。どう話がついたのか聴きたかったがやめた。私のケースも全開され、電器コード、充電器、それに火薬と間違えられたか海苔の乾燥剤の説明まで求められた。

ウズベキスタンに入り一路南下。道幅の広い幹線道路ではあるが路面が悪い。にもかかわらず、車は時速一〇〇kmで突っ走る。

玄奘は天竺への往路、このあたりを、今回、旅の出发点であるウズベキスタンの首都タシケントからフェルナガ・ウラチユベ・シャンフリシヤブスを通り鉄門に至っている。

道中にダルヴェルジン・テバがある。テバの外壁の高

学校は休み中なのか人影は無く、鍵をあけてもらうのに結構時間を要した。

一九八九〜九三年にかけて日本隊の調査が行われ日本語の「ダルヴェルジン・テバDT25」という報告書もあった。

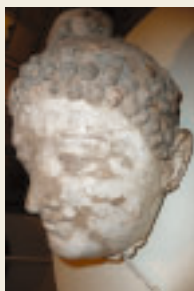


ダルヴェルジン・テバと外堀

さは約一〇m。外側は水路となっており、当時は城郭のお堀りでもあった。

この時、地元の子供たち五〜六人がこのお堀で水遊びしていて、人なつこく裸のまま一目散に駆け寄ってきた。

近くのダルヴェルジン村の学校に出土品と資料が並べられているが、貴重な出土品はウズベキスタン芸術学研究所やタシケント国立博物館に保管されている。後日これらの出土品を数多く見ることができた。



釈迦如来(1〜3世紀)



王侯貴族風菩薩像



仏教徒頭部(2世紀)



納骨器(オックスリア)



ファヤズ・テバ

この旅最終の目的地、アフガニスタンとの国境に近接するテルメスに着いた。緊張のある国境の町であり、遺跡見学にはいろんな制約やら問題があったが、何とかクリアして目的を果たすことができた。

玄奘の「大唐西域記」では、ここテルメスのことを「国の大都城は、周囲二十四里、東西は長く、南北は狭い。伽藍は十四余箇所僧徒は千余人」と記されている。なるほど周囲の仏教遺跡を含めると広大な遺跡である。往時の繁栄ぶりがうかがわれる。

その一つ、二世紀の仏教遺跡ファヤズ・テバに行く。現在見えるのは復元されたもので、外側の円塔の中にもとの仏塔が収められている。遺跡内にある保管棟の管理人に鍵を借りることが出来たので、仏塔の外側の扉を開け、狭い内側に



仏塔(2世紀) 高さ約3m

入った。仏塔の触れた感触は土を固めたというよりは石に近い冷たく硬質なものであった。石灰岩のように思われた。高さは約3m近くと推測する。保管棟には、未整理の発掘品やレプリカが展示されていた。ここで発掘された三尊物はタシケント国立博物館で保管され、レプリカが飾られていた。

仏教がインドから北上して中央アジアのここウズベキスタンとアフガニスタンの国境近くを流れるアマダリア河畔一帯に広まったのであった。仏教遺跡からの仏像、出土品などを見ると、ギリシャを始め西側(ヘレニズム)文化の影響、様式が濃密に出ている。



三尊仏(レプリカ)

広場にはかつて円柱が立って屋根もあったのである。等間隔の礎石が残っている。裏側は僧坊になっており壁面の等間隔の小

さな穴には仏像が祀られていたという。三尊仏もこのどこかに祀られていたのであろう。

少し離れたところに位置して、広大なウズベキスタン軍事基地内にあるカラ・テバは、すぐには入れない。ウズベキスタンの軍施設の門から入らねばならぬからだ。

日本から手配していた入門許可書を示したが断られた。理由は先日、



軍人の監視つき

この国境の近くでアフガニスタン兵二人が爆死したとのこと。カラ・テバは旅の大きな目的地の一つであり、そのまま引き返すことはできない。本部の司令官の許可を得るため、一時間

かけて市内の司令部に行った。司令官は留守。午後ようやくガイド・添乗員の交渉により許可を得ることができた。

許可証はどのようにしてOKになったのかと聞いた。そのわけは「遠い日本から来た仏教僧だ。もし不安があるならメンバーの数だけ見張りの兵をつけてもらえないか」と頼み込んで信用を得たのが理由とのことだった。結果、国境の向こうアフガニスタン方向を撮らないとの約束で二人の兵が随行して我々の監視と護衛をすることになった。



仏教寺院の柱



礎石

順路は仏塔のある北丘、西丘の儀式用広間から円柱の基礎部分を見ながら南丘へと移った。特に南丘の遺跡は、中央アジア独特の洞窟寺院の形式となっており、中庭のある構造になっている。インドの伝統ある石窟寺院の構造なのだ。正面から見るその先はアフガニスタンの領土だった。

テルメズの最南端。鉄柵の向こうはアムダリア川、そしてアフガニスタンに接する。玄奘はこのアムダリア川を越え南下して行ったのだ。玄奘への想いを鉄線の向こうに遣っていると、銃を持った兵士がいつの間にか寄ってきた。そして首からぶら下げているカメラの向きがいけないと、



アフガニスタンとの国境とアムダリア河

兵士に注意を受けた。

カンブル・テバはカラ・テバからアムダリア川に沿って二十kmのところにある。BC三世紀からAC九世紀の頃に栄えた。クシヤン王朝時代の遺跡の一つである。東西七五〇m、南北二〇〇〜三〇〇m。大小目的別の区画に分けられており、町としての殆どの機能が備わった都城址だった。未発掘の部分が多く、この八月には京都造形大学のチームが調査に入ると聞いた。



カンブル・テバ



水亀と居住跡

### ●テルメズから再びタシケントへ

最終日、テルメズからタシケントへは、旧ソ連製ヤコレフノス三十六人乗りのジェット機で移動。機のお尻から降り降りする古そうなジェット機で内装も明らかであった。でも上空から見る景色は、あたかもシルクロードの俯瞰図のようだった。朝日に輝くシルダリア川は、カザフスタンを経てアラル海にそそぐ。川の西の果てには、パミール高原、ヒンドゥクシュ山脈が連なっているのだ。玄奘はこの下のどこかを、そして果てしない道のりを一歩一歩歩み続けたのだ。

到着後、ウズベキスタン芸術学研究所とタシケント国立博物館を見学した。

芸術学研究所は一九二八年創設。中央アジアに広がるさまざまな芸術や文化に対し研究、保管を行っている。今回訪れたダルヴェルジン・テバ、カンフル・テバのほか、ハルチャンやウズベキスタン南部の各遺跡から発掘された壁面彫刻、壁画、像、工芸品などを所蔵している。

予期せずして特別な計らいでここを訪れることが

できた。特にジャイカカのボランティアで修復に携わるUさんと研究員のAさんの好意で出土品の解説をしていただいた。平成十七年「偉大なるオアシス国家の光芒・シルクロードの遺産展」で、日本の各地において展示された出土品の多くが保管されていた。これらをつぶさに写真に収めさせていただくことができたのは幸運であった。



仏手(2世紀)



菩薩壁面彫刻

帰国すべくタシケントに戻った後、一行の願いで、この大戦終結後に抑留された日本人墓地へ花を手向けさせていただくことができた。引き続き、中央ア

ジア最大の市場といわれるチョルスーバザールでの買い物をしたり、地元の人達の生活を実感したり、またアブルカシム・マドラサ(職人養成所)の見学などで旅の最後を締めくくった。

道中、様々な予期していなかったことに遭遇した。しかし、全ての日程がほぼ最初の計画の通りこなせたことは、日本からの学術調査隊をもガイドしているという現地のMさん、日本から添乗してくれたOさんが終始我々を支えてくれたからであった。

今後政情が安定すれば、玄奘も通った道、そしてテルメスに隣接する遺跡の宝庫があるアフガニスタンの各地をも訪れてみたい。そんな想いを抱きながら帰国の途についた。

(三)

本誌に掲載されていない発掘品の画像は、潮音院のホームページ <http://kore.mitene.or.jp/chouon/>にてアップロードしています。

## 本山 だより

### ○「京都五山禅の文化展」終了

平成二十年一月一日より二月二十四日まで福岡県太宰府市の九州国立博物館で「京都五山禅の文化展」が開催された。

昨年東京国立博物館で開催された遠諱事業の一環で、今回は西日本新聞社、TVQ九州放送の共催と、太宰府天満宮の特別協力をいただいた。

開会式には有馬頼底相国寺派管長、江上総長、坂根慈照寺執事長、山木鹿苑寺執事長、鈴木承天閣局長が出席。一月二十日には管長猥下の講演があり、二月十日・十一日には、江上総長と佐々木承玄師(大光明寺徒)の指導による坐禅会が催された。九州は大陸から最初に禅が伝わったところで、会期中十七万人という予想を大きく上回る入場者で賑った。

### ○前堂転位式

三月二十一日、開山堂において第二教区是心寺(長尾守峰住職)副住職和田賢明師の前堂転位式があった。師は相国寺専門道場で長年修行、現在鹿苑寺執事に

就任している。今後の活躍が期待される。

拜塔香語は左の如し

清風一片萬年春 塔下鐘声自有真  
千聖不傳無字色 朝參暮請眉毛新

### ○第四回臨黃教化研究会

二月四日、五日の二日間にわたり、花園大学において臨黃合議所主催による第四回臨黃教化研修会が開催され、本派一教区より普廣院副住職山木雅晶師、慈照院副住職久山哲永師、二教区より竹林寺住職牛江宗道師、大応寺住職久山弘祐師、四教区より海岸寺住職石崎靖宗師、五教区より萬福寺住職福場宗康師、六教区より光明寺副住職松本昭憲師、永徳寺住職松下恵悟師の九名が参加、他派若手和尚方と一緒に研鑽を積んだ。

### ○東京別院開山忌並観梅茶会

三月二日、東京別院において開山忌が厳修され、管長導師のもと江上総長はじめ一山が出頭した。その

後は観梅の釜がかかり、招かれた百名を超す参加者は茶室「正覚庵」で管長自らのお点前による濃茶を頂き、二階書院で江上総長席主の薄茶を楽しんだ。

また点心席での接待や来客の案内は、山木鹿苑寺執事長、坂根慈照寺執事長はじめ一山尊宿が務めた。

#### ○定期宗会

三月八日、平成十九年度定期宗会が本山会議室で開催され、鈴木元拙師(四教区向陽寺住職)が議長に選ばれ平成十八年度本派、本山決算報告、同二十年度本派予算案、事業計画案等が審議され承認された。

#### ○春秋巡教

本派布教師松本憲融師(六教区光明寺住職)は平成二十年三月十四日から二十六日まで、島根県内の本派寺院を八ヶ寺、南禅寺派寺院を十七ヶ寺、また石崎靖宗師(四教区海岸寺住職)は三月八日から二十三日まで京都府丹後地方の南禅寺派寺院を十ヶ寺、天龍寺派寺院を七ヶ寺、建仁寺派寺院二ヶ寺を、そして今回新たに本派布教師となった牛江宗道師(二教区竹林寺住職)が四月十二日から五月三日までの間に佐賀県地方の南禅寺派寺院五ヶ寺、東福寺派寺院を四ヶ寺

それぞれ春期巡教で布教した。

#### ○骨灰法要

三月二十二日、本山方丈において、京都中央斎場・宇治市斎場主催、京都仏教会、京都中央葬祭業協同組合協賛により春季骨灰法要が厳修された。

開式に先立ち江上総長が法話を行い、その後、総長を導師に内局全員が出頭した。今年も千人を超す遺族や関係者が焼香に訪れ、心静かに故人の冥福を祈った。

#### ○若狭相国会少年研修会

四月四日平成二十年度若狭相国会少年研修会が、本山方丈において行われ学童四十七名、寺院十名、役員七名が参加した。本山初登山の少年少女達は江上総長の法話の後、大書院で全員が慣れない坐禅を体験した。その後別室にて本山女子職員お手製のカレーライスを頂いた。また本山より記念品として数珠とクリアファイルが贈られ、その後一行は鹿苑寺を拝観して、無事帰路に着いた。

#### ○同宗連総会

四月十日同宗連(同和問題にとりくむ宗教教団連帯

会議)総会が京都市内のホテルオークラで開催され佐分教学部長が出席した。

#### ○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

四月二十日、三教区瑞林寺(長谷寺高山宗親住職兼務)では開山毎歳忌が厳修され江上総長と山木財務部長が拝請を受け出頭した。

#### ○拈華室老大師御遷化

五月八日大通院住職(本派専門道場師家)田中芳州老大師がかねてより四大不調のところ、薬石効無く五十九歳の若さで御遷化された。突然の訃報に一山は深い悲しみにつつまれた。十日に仮通夜、十一日に通夜、十二日に有馬頼底相国寺派管長を導師に津送・新忌斎が執り行われ、各派管長・僧堂師家、本派寺院、縁故寺院、大通会、檀信徒など多くの方々が参列した。また江上総長が宗派を代表し誄を奉読した。尚、後任師家は小林玄徳(頼光室)老師に決定した。管長香語は左の如し

#### 津送

理妙一段亘古今 理妙一段、古今に亘る

正偏回互該深心 正偏回互、深心を諷る  
夢回石女鳴梭夜 夢回る、石女梭を鳴らすの夜  
氣愕木人握印晨 氣愕く、木人印を握るの晨  
別々  
三千刹界空華結果 三千刹界、空華果を結び  
六十年間落葉帰根 六十年間、落葉根に帰す  
喝

#### 新忌斎

獨立西風恨入茄 獨り西風に立ち、恨み茄に入る  
一聲一曲憶胡家 一聲一曲、胡家を憶う  
幾回消息不通過 幾回消息通じ得ず  
極目白雲天一涯 極目白雲、天一涯

#### ○管長対談

五月八日コスタリカ大学教授のカルロス・バルガス教授が訪れ、管長と戦争のない平和な世の中の実現に向けて対談をした。教授は「人の命を大事にせよ」をキーワードに世界のあらゆる国の戦争や紛争に対し、軍隊を捨て、話し合いの、平和的解決を目指す途を示し、その実現のため日々努力されている。対談では仏教の



もつ慈悲、特に日本の仏教は平和の文化であると繰り返し褒め称えた。管長と直接向き合い大いに感銘を受けたもようであった。



師、南禅寺派光雲寺傳芳庵老大師をはじめ一山、縁故寺院四十五ヶ寺、檀信徒八十名が参列、楞嚴行導が厳修された。法要後は本山方丈に席を移し出齋となり、大象窟老大師の遺徳を偲んだ。

管長香語は左の如し

相逢三十有三霜 相い逢うて三十有三霜  
挿向一爐沈水香 一爐に挿向す、沈水香  
祖苑聯芳春幾度 祖苑聯芳、春幾度ぞ  
老翁花發尽扶桑 老翁花發きて扶桑を尽す

#### ○第三十四回臨黄合同高等布教講習会

五月十六～三十日まで妙心寺において、特別住職学布教研修会が開催され五教区萬福寺住職福場宗康師が講習生として参加した。また十六日開講式及び三十日閉講式には江上宗務総長が出席、十九日には役員として佐分教学部長が出席した。

#### ○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(平塚景堂執事長)では開山忌並びに開基(足利義政公)諷経が厳修された。法要に先立ち当寺華務花方佐野玉緒氏による献花が行わ

#### ○大光明寺齋会

五月十七・十八日大光明寺(矢野謙堂住職)において大津樾堂老師(大象窟)の三十三回忌宿忌、半齋が厳修された。十七日は矢野住職導師のもと有馬頼底相国寺派管長をはじめ法類、縁故寺院、総代が出席し、法要後寺内墓地にて塔参諷経が行われた。明けて十八日は管長を導師に国泰寺派管長虚室老大師、南禅寺派円通寺臥龍窟老大師、天龍寺派常照皇寺鳳棲軒老大師

れ、引き続き江上宗務総長を導師に一山尊宿、縁故寺院により諷経がなされた。



#### ○日田辯財天春季大祭

五月二十六日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で恒例の春季大祭が厳修され、管長を導師に、荒木前宗務総長、山木鹿苑寺執事長、矢野教学部員、久山哲永慈照院副住職が出席して大般若が転読された。法要後は集まった信者全員に管長はじめ出仕の僧らが一人ずつ厄落しの祈禱をした。

#### ○寺庭保護対策特別委員会

五月二十七日日本派寺庭保護対策特別委員会の小委員会が開催され、江上総長はじめ内局全員と二教区竹林寺住職牛江宗道師、三教区法雲寺住職大塚月潭師、四教区善応住職五十嵐祖伝師が参加した。

#### ○同宗連第一連絡会

五月三十日平成二十年度第一回同宗連第一連絡会が本山宗務本所事務棟会議室に於いて開催された。会議では各教団の人権問題のとりくみについて話し合わせ、その後法堂、方丈を拝観し解散となった。

#### ○桂寛洲師御遷化

六月三日第四教区南陽寺住職桂寛洲師が御遷化された。師は長年宗会議員を務め宗会議長にも就任された。

津送・新忌齋は七月七日に南陽寺で厳修され、秉矩導師を田村周山龍虎寺住職、奠茶導師を田中耕宗円福寺住職、奠湯導師を鈴木元拙向陽寺住職が務められ、本山より江上総長が出席し誄を奉読した。

#### ○相国会本部役員会

六月四日午後一時より本山会議室において、平成二十年度相国会本部役員会が開催された。四教区理事の平田一郎氏を議長に選出して審議に入り、平成十九年度事業・決算報告、二十年度予算案、事業計画案がそれぞれ審議承認された。

当日の出席者は左記の通り

- |              |        |
|--------------|--------|
| (理事)         | (顧問)   |
| 第一教区 片岡 匡三   | 山本 康稔  |
| 第二教区 波多野 外茂治 | 牛江 宗道  |
| 第四教区 平田 一郎   | 五十嵐 祖伝 |
| 第五教区 錦織 貞久   | 藤岡 牧雄  |
| 第六教区         | 松本 憲融  |
|              | 他、内局   |

○二十年度春期拝観報告

六月四日、春期拝観が終了した。今期も法堂、方丈、宣明(浴室)を公開し、今までで最高の二万三千人を超える拝観客があった。秋期拝観は九月十五日(月)～十二月八日(月)の予定である。

○観音懺法会

本山恒例の観音懺法会が六月十七日午前七時半より方丈において厳修され、早朝にもかかわらず多くの参拝者があった。

方丈において出齋となった。参列した全員があまりにも早い老師の御遷化を悼み、またそのご遺徳を偲んだ。

管長香語は左の如し

佛燈滅却瞎驢邊 佛燈滅却す、瞎驢邊かつろへん  
 知は無明得的伝 知んぬ是れ無明にして、的伝を得る  
 慙愧頂門正法眼 慙愧す頂門の正法眼  
 空餘夜月照青天 空しく夜月を餘して、青天を照す

○東京維摩会開催

年内の開催日は次の如くである。

管長坐禅会

- 八月休会 九月十三日 十月十一日
- 十一月二日 十二月十三日
- 十一月のみ第一日曜、他は全て第二土曜日
- ※前号で案内しました十一月八日は二日に変更になりました。

時間…午前十時半より正午頃迄  
内容…「無門関」提唱、坐禅、茶礼  
威儀…坐禅の組みやすいゆったりした服装が好ましい。

◆役配

- |    |       |    |      |
|----|-------|----|------|
| 導師 | 雅晶西堂  | 太鼓 | 量堂東堂 |
| 香華 | 林光和尚  | 大鈸 | 玄集西堂 |
| 自帰 | 光源大和尚 | 中鈸 | 弘祐座元 |
| 打磬 | 哲永座元  | 小鈸 | 正道座元 |
| 維那 | 豊光和尚  |    |      |

○拈華室老大師大練忌山門諷経

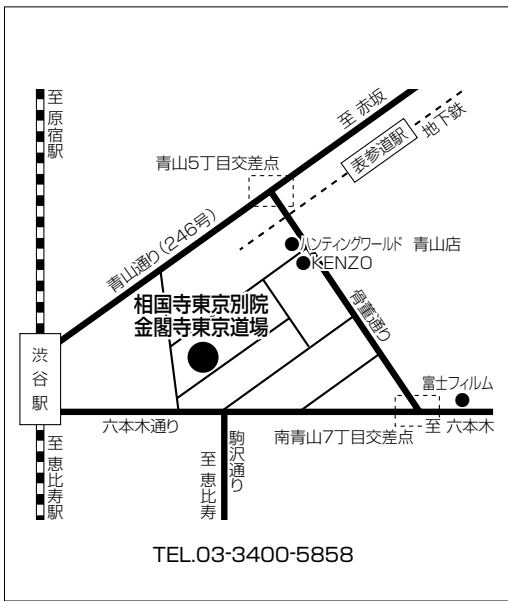
六月二十四日法堂において拈華室老大師大練忌山門諷経が厳修され、管長を導師に国泰寺派管長虚室老大師、南禅寺僧堂精光軒老大師、南禅寺派円通僧堂臥龍窟老大師、同派光雲寺傳芳庵老大師はじめ江上総長以下一山尊宿、大通会尊宿、親族、縁故在家など約百名が参列した。法堂諷経後は本山墓地内にある大通塔で納骨が行われ、その後



老師坐禅会

- 八月二十三日 九月二十日 十月十八日
- 十一月十五日 十二月二十日
- 八月のみが第四土曜日、あとは第三土曜日
- 時間…午後一時より三時半迄

内容…「臨濟録」提唱、坐禅、参禅  
 威儀…坐禅をしやすいゆったりとした服装で参加下さい。  
 (いずれの坐禅会も都合により休会となる場合がございますので御了承下さい。)



第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講伊勢まいり

毎年六月、大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて光源院住職荒木元悦和尚は、住職以来今年で四十一回目の入峰修行を無事終えられた。六月十三日午前九時、光源院行者堂において前行、道中安全、家内安全の祈願を役員、院号授与者の他多数の参拝者を行い、翌日十四日午前六時京都出発、貸切バス二台に八十七名と共に新緑の大和道を洞川に向い、昼食後直ちに入峰する。本年は近年まれにみる晴天にめぐまれ、今年の新客七名の他昨年行場が出来なかった新客と共に西の視をはじめ各裏行場修行を全員無事行い、そろって本堂に向かい参詣、勤行の後無事下山、西村清五郎旅館にて宿泊する。

十五日午前五時半、竜泉寺にて新客七名全員と共に水行(水温三〜四度)の後、朝食後洞川出発、一路伊勢路に向う岩戸屋にて昼食後鳥居前にて記念写真、その後に神宮参拝(内宮)般若心経を全員で唱和して、午

後一時半湯ノ山温泉に向って出発する。

三時に湯ノ山グリーンホテル到着、小宴を開く。午後六時同ホテル出発、新名神経由して午後八時半無事全員堀川今出川着、万歳三唱をして目出度く解散する。



第二教区

○教区総会

四月二十六日(土)午後四時より、八瀬平八茶屋にて、定期総会が、出席者十名の参加を得て開催された。賦課金を集めたあと、会議に移ったが、今年は法階調整の説明と第三回衆団得度式への参加を呼びかけた。そのあと、菓石をとりながらの懇親会に入った。初夏の新緑が笑うが如き中で、時間の過ぎるのも忘れて歓談したのち、散会した。

第三教区

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

四月二十日、瑞林寺(三重県津市片田井戸町長谷寺高山宗親住職兼務)では、大本山から江上泰山宗務総長、山木雅晶財務・庶務部員を拜請し、開山毎歳忌を厳修した。瑞林寺のある地元片田



井戸町は夢窓國師の生誕地とされており、当日は「生誕地石碑」前に町民こそって参列し盛大に法要が厳修された。

第四教区

平成十九年

十二月十二日 宗務支所 支所会(於・円福寺)

宗会議員、支所長、副支所長を選出。

議会終了後、懇親会。

平成二十年

一月八日

寺庭婦人会 新年例会(於・東源寺)

役員改選、新年度行事を協議。

二月一日

宗務支所役員引継ぎ会(於・円福寺)

二月二十六日

宗務支所 支所会(於・善應寺)

役員引継ぎの報告、本年度御親教について協議。

相国会・宗務支所 合同役員会

相国会、支所役員の顔合わせ、本年度御親教について協議。

四月四日 若狭相国会少年研修会(於・本山相国寺、鹿苑寺)

児童四十七名、住職十名、相国会役員七名、計六十四名参加。

本山にて研修、斎座を頂き、鹿苑(金閣)寺に参拝。

四月二十二日 寺院婦人会 研修旅行

三井寺拝観、大津月心寺にて齋座。京都にて美術館等を巡る。

四月二十三日 宗務支所 支所会(於・善應寺)

本派定期宗議会報告、平成十九年度宗務支所会計決算。

及び本年度御親教について協議。

四月吉日 長福寺 山門大修繕工事竣工

五月十五日 寺院婦人会 春期例会(於・善應寺)

寺族保護について協議。

五月二十三日 潮音院 寺院婦人葬儀

第十八世元泰和尚(先々住)御令室、鈴木糸子寺院婦人が五月二十一日に逝去された。(享年九十八歳)。

御威徳を偲ぶ方々が多数参列さ

れる中、潮音院本堂に於て葬儀が厳修された。

五月吉日 円福寺隠寮新築工事竣工

○南陽寺和尚葬儀

六月三日、南陽寺住職 桂 寛洲師遷化。

通夜は六月五日、十八時より南陽寺本堂にて行われた。

密葬は六月六日、十三時より南陽寺本堂にて行われた。

津送・新忌齋は七月七日、午前十時より南陽寺本堂にて行われた。

## 第五教区

○相国会出雲支部総会

五月十五日、西光寺に於て平成二十年度出雲相国会総会を開催、教区内寺院住職・役員が出席。

平成十九年度事業報告・決算報告のあと、平成二十年度からの新役員を選出。会長 錦織貞久氏(西光寺)、副会長 錦織康誉氏(増光寺)、会計 鶴原敬之氏(萬福寺)、監事 勝部和美氏(東光寺)。引き続き、

平成二十年度予算、事業計画を審議し承認。主な今年度の事業は七月二十三日、親子坐禅会、本山開山忌に団体参拝等である。

## 第六教区

○安国寺

四月一日午後三時

(矢野焰恵兼務住職)に於て、星原玄省和尚三回忌(大祥忌)が矢野焰恵和尚導師の下、六教区寺院縁故者檀信徒が参集して、楞嚴呪行導法要が営なまれました。



○教区寺院住職会

四月五日夕方五時より、霧島温泉キャッスルホテルに於て、郷土料理を味わいながら芋焼酎をくみかわしながらの懇親会が長時間におよびました。

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

**ADACHI 足立電気工業株式会社**

〒601-8045  
京都市南区東九条西明田町34-21  
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767  
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

<p>大本山相国寺御用達 御法衣・仏具 <b>(株)後藤利法衣店</b></p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話(075)221-4587 FAX(075)223-0094 フリーダイヤル(0120)014587</p>	<p>臨濟宗御法衣調達 大本山相国寺御用達 <b>湯浅法衣店</b></p> <p>〒606-0905 京都市左京区松ヶ崎杉ヶ海道町5-24 電話(075)705-2772 FAX(075)705-2773</p>
<p>大本山相国寺御用達 庭園 設計・施工 <b>樋口造園(株)</b></p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話(075)462-1385 FAX(075)464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達 精進料理 <b>矢尾 治</b></p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話(075)841-2144 FAX(075)841-2110 <a href="http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp">http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</a></p>
<p>總本山御用達 <b>安田念珠店</b></p> <p>本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 電話(075)221-3735(代表) 東京・札幌・福岡 各営業所</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達 社寺建築 設計・施工 数寄屋建築 <b>澤甚株式会社 澤野工務店</b></p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL(075)561-5394(代) FAX(075)533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL(075)541-1257(F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達 <b>後藤新助法衣仏具店</b></p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表)(075)462-3915番 ファクシミリ(075)462-3616番 URL <a href="http://www.rinzai.jp">http://www.rinzai.jp</a> E-mail: <a href="mailto:rinzai@rmail.plala.or.jp">rinzai@rmail.plala.or.jp</a></p>	<p>大本山相国寺御用達 社寺建築 <b>(株)北村誠工務店</b></p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都(075)441-0563 FAX京都(075)441-0571</p>



● 編集後記 ●

本年五月、江上泰山師が宗務総長に就任され、第三次江上内局が発足いたしました。教学部は留任ということで、これから三年間、任期満了まで粉骨碎身がんばって参りますので皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

本年は五月に僧堂の拈華室老大師が御遷化になり、一山騒然となり、あまりにも早いご遷化に言葉をなくしました。先日六月二十四日、四十九日の忌明の日に、法堂に於いて山門諷経を行い、大通塔に納骨致しました。本号は老大師の遺徳を偲ぶ追悼号と致しました。

また六月三日には第四教区南陽寺住職桂寛洲師がご遷化になりました。長く第四教区の発展に努められ、本山においては宗会議長を務められ、本山護持に尽力いただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(佐分 記)

平成20年8月1日

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591  
URL <http://www.shokoku-ji.or.jp> E-mail [kyogaku@shokoku-ji.or.jp](mailto:kyogaku@shokoku-ji.or.jp) (教学部)

なが——い、おつきあい。



長かったと言えぬ人生。優しい気持ちになれる人生。自分らしく生きる人生。  
京都銀行は、人生のさまざまなチャンスで、気さくにサポートする飾らない銀行です。  
どうぞ、なが——い、おつきあいを。

飾らない銀行  
**京都銀行**  
<http://www.kyotobank.co.jp/>

社寺庭園・町屋庭園・露地庭  
作庭 管理



**植昭** 長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3  
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

印刷を極め、印刷を超える——

生産力と機動力、開発力と発想力をもって  
「新しい社会に貢献する企業」を目指します。



ISO27001:2005 認証取得    ISO9001:2000 認証取得    日本水なし印刷協会 認可工場 (環境安全対策)

**ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所**

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572NOA高松殿ビル6階 TEL.075-252-5421  
[本社]金沢 [支店・営業所・工場] 東京・金沢・大阪・富山・福井・京都・静岡 URL <http://www.yoshida-pj/>

あなたの、豊かな  
人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、  
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用    不動産のご相談    資産の管理・承継

**三菱UFJ信託銀行** MUFJ

京都支店 〒600-8006 京都市下京区四条通高倉 TEL.075-211-7161  
京都中央支店 〒600-8006 京都市下京区四条通高倉 TEL.075-211-1261

www.shoyeido.co.jp



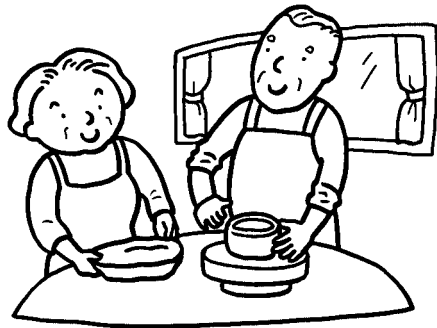
大本山相国寺御用達  
香老舗 **松紫堂**

京都本社/京都市中京区烏丸通二条上ル東側 〒604-0857 TEL 075(212)5590  
東京支店/東京都中央区日本橋人形町2-12-2 〒103-0013 TEL 03(3664)2307  
札幌支店/札幌市中央区南8条西12丁目3-6 〒064-0808 TEL 011(561)2307

京都本店 産寧坂店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店

# 中央三井信託銀行

●遺言・相続 ●不動産 ●ローン ●資産運用の総合コンサルタント



自分の意思どおりに遺産を分け与えたい。  
**相続、安心。**

遺言書作成のお手伝いから  
遺言書の保管、  
遺言の執行まで  
ご意思を確実に実行いたします。  
**中央三井の遺言信託**

【遺言信託標準報酬等(消費税等含む)】(平成20年6月1日現在)  
●遺言書作成時：基本保管料105,000円および保管料(年間6,300円の月割り計算) ●遺言書保管中：年間保管料6,300円  
●遺言執行時：遺言執行標準報酬(財産の相続税評価額に当社規定の率を乗じた額。但し、最低報酬は105万円。)  
詳しくは窓口までお問い合わせください。

**中央三井信託銀行 京都支店** TEL.075-231-8251  
〒600-8007 京都市下京区四条通東洞院東入立売西町66番地 届出第7号

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷  
華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

## 橋兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側  
電話 (075) 221-0934 番 振替京都01090-4-3476

# 抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位  
自園茶 農林水産大臣賞28回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年以翠平

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治(宇治茶製造販売)  
**久小山園**

本社 京都府宇治市小倉町寺内86  
(0774) 20・0909  
直営店 ジェイアール京都伊勢丹B1  
取扱店 全国茶専門店・茶道具店  
<http://www.koetsuan.com>

大本山相国寺御用達

## 京表具

絵画・墨跡・織物・修理・一般表具一式  
宗紋襖紙・御殿引手 発売元

こう えつ あん  
**浩悦庵**

古文化財保存修理研究所  
矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今葉屋町318  
TEL(075) 254-6021(代)・FAX(075) 254-6022  
東京営業所 〒203-0014 東京都東久留米市東本町9-9 TEL・FAX(0424)72-6239

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

Your Global Lifestyle Partner  
～お客様の感動を創造します～

国内旅行

宇宙旅行

JTB

海外旅行

大会幹旋

JTB西日本団体旅行京都支店

〒604-8152 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町 670 京都フクトクビル 5階  
TEL:075(241)0139 FAX:075(255)6564

(営業時間 9:30～17:30 / 土・日・祝日休業)



二条城のほとりに  
寛ぎがある

 京都全日空ホテル

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前  
ご予約、お問い合わせは (075) 231-1155  
<http://www.ana-hkyoto.com>

## 教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分宗順

### ◆研修会

二〇〇七年から二〇〇八年にかけて「インド仏教はなぜ減んだのか」というテーマで麗澤大学教授保坂俊司氏による四回の講義を承天閣講堂において下記の日程で開催し、多数のご参加を頂きました。とくに龍門寺の河野大通老大師が聴講にお越しいただき、熱心な質疑、討論が行われ、我々宗門僧侶初め、参加者に大きな励みとなったことは誠にありがたく、この紙面を借りて御礼申し上げます。講義録は「仏教の盛衰に何を学ぶか」と言うタイトルで六月一日刊行されました。また相国寺研究として、橋大学非常勤講師伊藤真昭師による「相国寺文書の研究」と題する三回の講義を相国寺事務棟二階会議室に於いて下記の通り開催いたしました。講義録は「近世の相国寺」として七月に刊行の予定です。

### 日程

テーマ11「インド仏教はなぜ減んだか」

講師◎保坂俊司氏

第一回(三十九回)二〇〇七年十月二十四日(水)

「インド仏教は何故興隆したか―インド宗教世界と仏教の位置付け」

第二回(四十回)二〇〇七年十一月二十一日(水)

「インド仏教の衰亡と宗教興亡―インドにおける宗教の興亡」

第三回(四十一回)二〇〇七年十二月五日(水)

「仏教は何故減びなかったのか―南、東南アジア、そして日本等の事例」

第四回(四十二回)二〇〇八年一月十六日(水)

「仏教の持つ可能性―日本仏教の価値と二一世紀世界への提言」





### 相国寺研究三「相国寺文書の研究」

講師◎伊藤真昭師

#### 日程

- 第七回 平成十九年十一月八日(木)  
「『西笑和尚文案』からわかること」
- 第八回 平成十九年十二月十三日(木)  
「西笑承兌の残したものと江戸時代の相国寺」
- 第九回 平成二十年一月三十一日(木)  
「相国寺文書調査からわかったこと」



また本年五月から左記の日程で慶応義塾大学助教  
授前野隆司氏による講座を開催いたしました

### テーマ12 「脳科学と哲学・宗教―受動意識仮説は脳と心の問題を解決できるのか？」

講師◎前野隆司氏

最先端の科学の研究の成果は、同じ心の問題を扱う私ども宗教者にとっても大変興味深く啓発されるどころがあります。脳科学や生物の進化、ロボット工学の技術を研究されてきた前野隆司氏による問題提起。

#### 日程

- 第一回(四十三回)二〇〇八年五月十五日(木)  
「心のクオリアの謎を解く受動意識仮説」
- 第二回(四十四回)二〇〇八年五月二十二日(木)  
「感覚も自己意識も脳のニューラルネットワークが作った幻想なのか？」
- 第三回(四十五回)二〇〇八年七月十日(木)  
「宗教・哲学・科学と受動意識仮説」

### 相国寺研究三「相国寺文書の研究」

講師◎伊藤真昭師

#### 日程

- 第七回 平成十九年十一月八日(木)  
「『西笑和尚文案』からわかること」
- 第八回 平成十九年十二月十三日(木)  
「西笑承兌の残したものと江戸時代の相国寺」
- 第九回 平成二十年一月三十一日(木)  
「相国寺文書調査からわかったこと」

第四回(四十六回)二〇〇八年七月二十四日(木)

「悟りの境地は脳科学で説明できるのか？」

### ◆講師プロフィール 前野隆司

#### 略歴

一九六二年山口生まれ。一九八四年東京工業大学卒業、一九八六年同大学院修士課程修了後、キヤノン(株)入社。超音波モーターや精密機械の研究開発に従事。一九九五年慶応義塾大学専任講師、一九九九年同大学助教、現在に至る。

一九九〇～一九九二年カリフォルニア大学バークレー校 Visiting Industrial Fellow、二〇〇一年ハーバード大学 Visiting Scholar。

生物の進化シミュレーション、進化・生命化するロボットなど、ロボットとヒトの研究に従事。

慶應義塾大学院システムデザイン・マネジメント研究科システムデザイン・マネジメント専攻。

#### 著書

『脳はなぜ「心」を作ったのか―私の謎を解く受動意識仮説』 (筑摩書房 二〇〇四/十一)



「脳の中の「私」はなぜ見つからないのか?」ロポ  
 テイクス研究者が見た脳と心の思想史」  
 (技術評論社 二〇〇七/八/〇二)  
 「錯覚する脳―「おいしい」も「痛い」も幻想だった」  
 (筑摩書房 二〇〇七/〇五)

これからの研修会として左記の講座を予定して  
 おります。多数ご参加下さい。

テーマ13 「経済倫理と現代イデオロギー」

講師◎橋本 努氏

経済倫理に係わる時事問題から説き起こして、ど  
 んな「主義」に至るのか、倫理的に一貫した立場を、皆  
 さんがそれぞれ築いていくと、なに主義になるのか、  
 という問題を出発点に、現代の思想問題を考えます。  
 「あるべき体制」について、グローバルな視点から、日本  
 人の視点から、あるいは思想史の視点から、講義を進  
 めます。

日程

- 第一回(四十七回)二〇〇八年九月八日(月)  
 「経済倫理―あなたはなにに主義」
- 第二回(四十八回)二〇〇八年九月十二日(金)  
 「グローバル正義論」
- 第三回(四十九回)二〇〇八年九月十七日(水)  
 「近代イデオロギー論―ウェーバー中間考察  
 の刷新」
- 第四回(五十回)二〇〇八年九月二十五日(木)  
 「潜在能力イデオロギー論―現代日本社会論」

時間 いずれも

- 講義 午後一時三〇分―三時
- 質疑 午後三時一五分―四時

◆講師プロフィール 橋本 努

略歴

一九六七年十二月二十九日東京都中野区生まれ、  
 横浜国立大学経済学部卒業後、東京大学大学院総  
 合文化研究科で博士号取得。現在、北海道大学経  
 済学部准教授。専門は、経済社会学、社会哲学。

著書

- 『自由の論法―ポパー・ミーゼス・ハイエク―』  
 (創文社「自由学芸の騎士シリーズ」一九九四/十二/十)
- 『社会科学の人間学―自由主義のプロジェクト』  
 (勁草書房 一九九九/九/〇五)
- 『帝国の条件―自由を育む秩序の原理』  
 (弘文堂 二〇〇七/四/十五)
- 『自由に生きるとはどういうことか―戦後日本社会論』  
 (ちくま新書 二〇〇七/十一/十)
- 『学問の技法』(仮題) (ちくま新書 予定)
- 『経済倫理―あなたはなにに主義?』(仮題)  
 (講談社メチエ 予定)
- 『自由で不自由な社会を読み解く』(仮題)  
 (中公叢書 予定)

●来年度研修会予定

来年三月から五月にかけて松岡正剛氏を講師に三  
 回の講座を予定しております。詳細は追ってご案内  
 いたします。



おしんしばん  
**無準師範墨蹟 應知客**

大光明寺藏(宋)

無準師範(仏鑑禪師・一一七七～一二四九)は中国宋五山第一位  
径山万寿寺第三十六世住持。稀代の名僧で日本からも多くの禅僧が  
参禅しており、宋朝禅の黄金期を創った禅僧の一人。その俊足の中  
に京都東福寺開山となる円爾弁円(聖一國師)がある。円爾は帰朝後  
任治三年(一二四二)筑前博多(福岡市)承天寺の開山に請せられた。  
これを伝え聞いた師の無準からその祝いに、境内の各伽藍に懸ける  
多数の禅院額字並牌字が承天寺へ送られてきた。これらの多くは本  
山東福寺に伝存している。この「応知客」もその中の一点。知客とは  
禅院での来客や院内の人事、また規矩法式等を掌る重要な役職の名  
称。扁額用に揮毫したものであろう。力強い字である。左下に圓照と  
捺された朱文丸印は無準の別号。

尚無準の法はその法嗣鎌倉円覚寺開山祖無学祖元から建長寺住  
持高峰顕日へ、そして相国寺勸請開山夢窓疎石、相国寺創建春屋妙  
融へと当山へも伝わっている。

(平成二十年十月十五日から十二月十四日まで日仏交流一五〇周年 京都八日  
友誼盟約締結五〇周年記念 相国寺・金閣 銀閣名宝展) 出品予定作品

(宝物解説 承天閣美術館事務局長 鈴木景雲)

研修会参加お申し込みは教化活動委員会まで下記  
の要領でお申し込み下さい。

郵便番号、住所、氏名、宗派名、電話番号、FAX番  
号、emailアドレスを明記の上、下記の住所に郵送い  
ただくかFAXでお申し込み下さい。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五二二三一〇三〇一

FAX〇七五二二三二五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-ji.or.jp>)

尚、いずれの講座も、講師の都合により日程、演題をや  
むを得ず変更する場合がありますのでご了承下さい。

◆講義録発刊

「仏教の盛衰に何を学ぶか」

保坂俊司著

「近世の相国寺」

伊藤真昭著

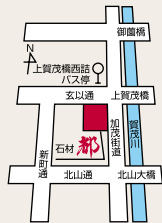


とわ  
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男



年中無休 営業時間 / AM 8:30 ~ PM 6:00 (日曜日 PM 5:00 まで)

本 社 : 〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイイン  
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話 (075) 491-4114 (代)

工 場 : 京都市北区上賀茂神山 389 番 24 ヨクソ ヨイイン  
(洛北病院バス停前) 電話 (075) 702-2440

夜 間 : 京都市左京区岩倉南池田町 117 電話 (075) 702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた  
穆として清風の如し  
清風の如く柔和な人柄

撮影◎普賢院副住職 山本雅晶  
倉所ノ韓国釜羅北道・海岳面金面寺